

審議会会議録

1	会議の名称	平成26年度第4回富津市子ども・子育て会議
2	開催日時	平成26年12月22日 午後2時～午後3時40分
3	開催場所	富津市役所401会議室
4	審議等事項	(1) 富津市子ども・子育て支援事業計画(案)について
5	出席者名	委員 富井碧、木下照代、井上久吏子、廣田梓司、能城美佐子、鈴木眞廣、君塚善恵、岩瀬志帆、岡村京子、渡辺務、菊池定勝 事務局 前沢健康福祉部長、白石子育て支援課長、茂木子ども家庭係長、小野田保育係長、渡邊主任主事、健康づくり課圓川総括保健師、学校教育課渡辺学務係長
6	公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	1 人(定員5人)
9	所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0439-80-1256
10	会議録(発言の内容)	別紙のとおり

平成26年度第4回富津市子ども・子育て会議 会議録

発言者	発言内容
事務局・茂木	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認
渡辺会長	<p>2 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の成立
事務局・茂木	<p>本日、白井委員、相澤委員、小柴委員、松倉委員が欠席で、11名の委員の方が出席でございます。よって、過半数を超えており、子ども・子育て会議設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開
事務局・茂木	<p>この会議につきましては、富津市情報公開条例第23条の規定により、会議は公開することとなっております。</p> <p>本日の傍聴人は1名です。</p> <p>議事進行は、渡辺会長にお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議録署名人
渡辺会長	<p>議題に入る前に本日の会議録署名人を指名いたします。本日の会議録署名人は、能城委員を指名します。</p> <p>3 議題</p> <p>< (1) 富津市子ども・子育て支援事業計画（案）について ></p>
渡辺会長	<p>議題（1）富津市子ども・子育て支援事業計画（案）についてを議題とします。事務局の説明を求めます。</p>

ここで、事前に委員の皆さまから頂いたご意見について、ご説明申し上げます。

4 頁をご覧ください。松倉委員から 4 頁から 14 頁までの「グラフ等に使用されているフォントが異なるのが気になる」とのご意見がありました。

これにつきましては、できるだけフォントを揃えるようにします。

15 頁をお開きください。同じく松倉委員から「富津市として目指したい保育の内容（質）も盛り込んで、ただ、量が足りているということではなく、富津市独自の方向性が示せたら良いのでは」とのご意見がありました。

富津市独自の方向性をこの場で示すことは難しいので、富津市の特性を生かし、地域の実情に対応した子ども・子育て支援の方策への取り組みが求められていることを課題として加え、今後、議論を進めていきたいと考えております。

16 頁をご覧ください。鈴木副会長から「次世代を担う子どもたちの権利と利益が最大限に尊重され、子どもたちが健やかに生まれ育ち、誰もが安心して喜びと生きがいを持って子育てができる社会の実現を目指し」とあるが、富津市の子ども・子育て支援事業の計画なので、ここでいう「社会」は「富津市」と読み替えるべきでは、とのご意見がありました。

これにつきましては、ご意見のとおり「社会」を「富津市」に改めさせていただきます。

25 頁をお開きください。木下委員から 25 頁から 34 頁までは、地域子ども・子育て支援事業の量の見

込みと確保方策となっておりますが、「自分の興味のある所しか、目がいかないので、一目でわかるような一覧があると良いのでは」というご意見がありました。

ご指摘のとおり、わかりにくいと思いますので、(1)利用者支援事業の前に頁を記載した一覧表を載せることといたします。

38頁をお開きください。同じく木下委員から「担当部署が書かれているので、わかりやすいが、予防接種、検診など詳しく知りたい内容があったときに、直接聞けるように電話番号を載せては」というご意見がありました。

事業計画の本編には、通常、問い合わせ用の電話番号を載せておりません。このため、本計画の資料編あるいは一般向けの概要版に担当課の電話番号を掲載することを検討いたします。

最後に、鈴木副会長から計画策定の趣旨の「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供とは、どういうことなのか、教育・保育の質的改善とはどういうことか、具体的議論と可視化（文字に起こしていくこと）が必要だが、そういう議論の時間が取れていない。」、また、「目標が抽象的で、具体的なビジョンやアクションが見えてこない。具体的方策に行く前の理念の具体化が必要である。目標（ビジョン）を受けて、ミッション（課題を明確にし、解決に向けた方向付け）と具体的課題解決の方策（アクション）への議論ができていない。時間が取れないなら、後で議論すべきでは」とのご意見をいただきました。

ご指摘のとおり、議論が充分尽くされたとは言えない状況であると認識しております。しかし、残念ながら、日程上、議論の時間を取れる状況にないので、今

<p>渡辺会長</p> <p>木下委員</p> <p>渡辺会長</p> <p>鈴木副会長</p>	<p>後、計画をどのように進めていくか、委員の皆様のご意見を伺ってまいりたいと考えております。</p> <p>○質疑・意見</p> <p>事務局の説明が終わりました。まず、事前にご意見を出された方がいかがでしょうか。</p> <p>木下委員どうでしょうか。不明な点、付け加えるべき点等がありますか。</p> <p>大丈夫です。</p> <p>鈴木副会長どうでしょうか。</p> <p>計画は、富津市をどういうまちにしていくかということが大事だと思います。特に行政として成り立っていない、全国の自治体が半分になるのではないかという中で、この会議の中で戦略的に富津市というまちを考えていくということがどれだけ出来るのか限界はあると思います。ですが、少なくともこの子ども・子育て会議の中では、子育て支援ということに対して、どういう理念でみんなが安心して子育てしやすいまちにするかということを描き出すということはものすごく大事なことだと思います。それには、個人の意見を会議の中で出して、揉んで言葉化していく、みんなに読めるものにしていく作業が必要で、そうした作業がないと、どうとでもとれるような理念と、現実に実施している事業を羅列するだけのものにしかならないと思います。具体的に「富津市はこれからの子育てのことをこのように考えているのだ」と「これなら自分も参加してみたいな」というみんなにインセンティブ、やる気を与えるようなものを作りたいなと思います。</p> <p>そうしたことには、17頁の妊娠期・出産期の「新しい生命の息吹と赤ちゃんの愛くるしさを実感し」と</p>
--	---

は具体的にはどういうことか、実際今の現実社会の中で愛くるしさの実感はどうできているのかをみんなで議論しなければいけないし、今できていることは何か、工夫しなくてはいけないことは何かを議論しなければいけないと思います。また、「子育てに意欲的な世代を目指しましょう」とありますが、意欲的な世代をどう育てるのかをみんなで考えていかななくてはいけないことだと思います。

以前に市内の公立・民間保育園でマタニティ講座というものを何年か実施しました。それは、まだお腹に赤ちゃんがいるお母さんに保育園に来てもらって先に産まれた赤ちゃんを抱いてみる、授乳させてみる、げっぷをさせてみる、寝かしつけてみる、おむつを替えてみるということを体験講座という形でやってきました。ただ、これは個人情報に壁に阻まれて、どこで誰が出産したという情報が手に入らなくなり、実施が困難になり、民間ベースでやることの限界というのがそういうところで見えてきました。それは、そういうことを一つやろうとすると、情報の問題をどうしようかとかどういう体制を組んだらできるのか、100%は無理でも多くの人がそういうものに参加できるような体制をつくるにはどうしたらよいかという議論もできない状況です。

また、お母さんお父さんの予備軍としての中学生や高校生が赤ちゃんに触れ合う機会がないと思います。うちの保育園で大貫中学校の3年生が家庭科の授業の育児体験というものを依頼され、3日間で90人の生徒が来ました。子ども達も頑張って抱いてみたりしていましたが、もっと特別なことでなくてやっていこうとしたらどういうやり方があるかなと思いました。

	<p>それは、例えば、乳児健診のお手伝いなど、そういうことをもし、やろうとしたら、それはここだけで考えてもできないと思います。学校のカリキュラムの中に組み込まなくてはいけないし、実際に子どもが来た時にどのようにやっていくかを考えなくてはいけないし、みんなで考えることがいっぱいあると思います。この会議の中で、この人数でこの日は赤ちゃんのこと、この日は学童のことを考えて行きましようとする話が進まないと思うので、そのためには、少人数で詰めたりすることが必要なのだろうなと思います。</p> <p>計画を作るのは日程的に決まっていると思いますので、その中であれもこれも書き込むことは出来ないと思います。ただ、計画はどのような位置づけなのか、課長から説明があったようなこれから検討し続けることを計画としてどのように盛り込むのか、位置づけるのかというものを教えてもらいたいです。</p>
渡辺会長	<p>今の意見は理論と目標がここに謳われているけれども、それがあいまいで、少し具体的に見えるようにしていったらいいのではないかということで、その中で方法論をどのように組み込んで行ったらよいかというものでした。それについて、事務局としてどうですか。</p>
前沢健康福祉部長	<p>事業計画につきましては、「いいじゃないかふつつ」の中の乳幼児期から主なものについて、掲載しています。</p> <p>第5章については、子どもについての全体での取り組みを掲載しています。この事業計画に沿った中でどのように実施していくか、今後ご意見等を伺い、進めていきたいと考えております。</p>
鈴木副会長	<p>今回の事業計画に盛り込むものは具体的なものは、</p>

	<p>既存のものを含めて入っていますが、理念を実現するプロセスの中でもっとこういう取り組みが必要ではないかという柱建てについては、計画にどのように盛り込まれているのでしょうか。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>1 ページに「質の高い教育」、「保育の質の改善」とありますが、その「質とは何か」という議論はされていません。その議論をしないで、質を高めるといってもそもそも何を高めるのかわからない。つまり計画を立てるための計画になっていて、計画を立てることがその目的になっていて、本来目指すべきは、「富津市の子ども子育てをちゃんとしよう」というのが本来の目的で、副会長が仰っているのはそういうことだと思います。事業計画を作るには時間的な制約があると思いますが、その先の具体的な計画の組み立てやロジックというものをどうしていくかという方向性はある程度示したいことだと思います。その辺はいかがでしょうか。今年度は、計画を立てることでスケジュールはほぼいっぱいだと思いますが、これから議会やパブコメにかけ、成果物として最終的な案を出すということになります。そのためには限られた回数の会議のなかで、これから先、どんな方向で議論していくか、事務局としてどんな意見をお持ちですか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>質の改善については、保育の質は人材の充実に重点をかけていくべきだと思います。それと環境の面もありますが人の育成が重要です。それには市の独自の事業で研修等を今後もやっていきたいと思っています。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>具体的な実施をどう考えるかではなくて、子ども・子育て会議の中で事業計画の理念や目標をもう少し具体化していったらどうかということだと思います。その一つの例として「保育の質を上げる」とはどうい</p>

	<p>うことかをこの会議の中で議論してもいいと思います。それを議論するというのがこの子ども子育て会議のひとつの方向性かもしれないとも思います。そもそも諮問機関としてのこの会議の役割があると思いますが、それを含めてどう考えるかということです。</p> <p>例えば、計画は計画として良いと思いますが、計画の中身にスポットを当て、ある問題について子ども・子育て会議の中で議論して何か良い方法を見つけていくというような方向性を出すには、この計画にのっとりていくと、来年4月から肅々とこの計画を進めて行き、予算が足らなければ先延ばして、計画を進めて行くことだと思いますが、ただこの年度に何を作っていくということより、なおざりにされちゃいけないのが、個々の本質的なそれぞれの問題で、それをいつどこで議論していくかということだと思います。それは、この計画では担保されていません。そういった点をどう考えて行きますか。</p>
鈴木副会長	<p>我々委員は、任期がもちろんありますが、計画を出した後、我々が議論したものがどういう風に計画に根付いていくのか、そこのところが見えていません。計画に書いてないからそれは出来ないのだと言われると議論する気力がなくなってしまいます。みんなで議論し、精査していきながら、こうやって計画の中に描かれていくのだとか、こういうことを次の年度に盛り込んで行きますよというような方向性が見えてくると今日は会議に行くぞという気持ちになると思います。</p>
事務局・白石	<p>この会議の元々の趣旨は事業計画を作成するために意見を聞く会議で、子ども・子育て支援法に明記され、努力義務として市町村が設置することとして設置しています。ですので、今の一番の目的は、事業計画を策</p>

<p>鈴木副会長</p>	<p>定するため、保護者の方や事業従事している方の意見を反映させるためというのがこの会議の最大の目的です。今後、会議を進めて行く中で、皆さんの意見をお聞きして、それを取り込んで、進めて行きたいと考えています。</p> <p>計画を作ることが目的と言われてしまうと何のために計画を作るのだということになります。作った計画に基づいて、その中にある「子どもの権利をどう守るのか」や「質を高めるのか」、あるいは「最善の利益を保証する」など、言葉は踊っていますが、その何を100点満点とはいかないけど、富津市としてはこのことをこのように捉え考えて、続けるためにこういう努力をしたという成果や手ごたえを計画に基づいて実施していきたいと思います。計画を作って終わりと言われてしまうと計画ってそんなものだったのかと思わざるを得ません。</p>
<p>岡村委員</p>	<p>学童保育で地域コミュニティ、地域の皆様の力で安全というものを作っていくと考えると「おはなしの会」の方や昔のおうたを歌ってくれる人が来てもらえるということが安全を作っていくと思います。</p> <p>今度、私の学童で「囲碁の家」というものを始めることにしています。午前中、学童保育は利用していないので、その空いている時間を利用して一般の人に来ていただいて、また、月に1度でも子ども達と年配の方、地域の人達と囲碁をやってもらい、触れ合ってもらい、ここでは何をやっているのかということをおわかってもらいたいと思っています。そうすることで、色々な方に知ってもらい、気にかけてもらうことで、子どもの安全が作っていけるのではないかなと思って進めております。</p>

	<p>このような感じで学童保育一つにしても地域コミュニティだと思imasるので、地域の方と何か一つになってやる事業を学童に入れると、学童保育の見方も変わってくると思imasます。また、色々な方から見られていると、指導員自体も今までは狭い中で見られていたところが、色々な人から見られていくことによって、質の向上につながると思imasます。そういった学童保育と地域との交流のような事業を必ず一つ加えましようというのも面白いかなと思imasます。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>今議論しているのは、計画のそのものからちょっと離れていますが、本来の子ども子育て会議の在り方を見つめ直そうとする議論で、抽象的でわかりづらいものだと思imasます。他に意見があれば、この計画と一緒にどうやったらこの計画の中にそういったことが盛り込んで行けるか、これだったらこの計画で良いだとか、少し軌道修正をして話していただければと思imasます。</p>
	<p>課長の先ほどの説明の中の50頁で計画の推進体制について、PDCAサイクルでやっていくと話がありました。その上で6-1として「市民参画とか関係機関と相互に連携し計画の着実な推進を図ります」と基本的な体制作りという枠組みが出来ていますが、この中で、PDCAの中でアクトの部分、事業の継続・拡充、計画の見直しは、誰がどういう体制でやっていくのか、何か考えはありますか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>見直しにつきましては、事業実施の点検評価のチェックがあり、毎年事業が終わった後、その次の年にその事業がどうだったかを皆さんにご議論いただいて、それを受けてこのアクトになります。事業をどうやっていくか、新規事業の追加とか事業の見直しなどを会議の中でご議論いただいて、検討して行きたいと考え</p>

<p>渡辺会長</p>	<p>ております。</p> <p>P D C A サイクルというのは、推進も評価も含めて、事務局とこの会議の中で推進して行くものですか。それとも部内での評価というものがあるか確認したいのですが。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>まず、庁内で評価をすることになります。担当課が評価して、それを皆さんに見ていただいてチェックしていただくことになると思います。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>評価を年度ごとにして、評価して見直したいということになったら、それが次年度になったら書き加えられていくという仕組みでよろしいのでしょうか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>実際のところは、次年度ですぐやれるかというのと、例えば27年度の初年度が終わって、28年度に評価を行います。それで最短でやったとしても29年度から反映できるものと思いますので、翌年度から反映するというのは難しいと思います。予算への反映もありますのでズレは生じてくると思います。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>5年計画の途中で見直しなり、追加なりは可能でしょうか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>それは可能です。</p>
<p>前沢健康福祉部長</p>	<p>実際に評価ですが、国でも消費税が10%に上がる中で、事業も変わってくる可能性もありますので、新規事業については、その事業が富津市に合うかどうかというものも庁内の体制の中で課題として今後どのような形で取り組んでいくか詰めて、皆さんに評価してもらい、進めて行きたいと考えております。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>この計画の前の次世代育成支援行動計画で前期と後期と県の計画に携わってきました。評価の問題も議論してきましたが、県も結局直りませんでした。直らなかったというのは、結局何を評価するかという目標</p>

	<p>に対して立てた計画を事業量でしか達成度をみることはできない。やった中身がどれだけ理念や目標に効果や成果があったのかという評価はできませんでした。県でも研修会が何回やったとか、参加者が何人だとか数字ばかり出てくる、いっぱいできてきたから良い評価、A評価ということになってしまいましたが、評価はそういうことではないと思います。お金がなければできないことばかりじゃなくて、お金がなくても出来ることはいっぱいあって、それは行政の中で作ることは限界があって、市民がどれだけ必要感を感じて、こういうことをやれるのではないか、ああいうことは工夫してできるのではないかと、そういう意見を出して、それを行政が市民の人からこういう意見が出ているのだけでも形にしていくにはどうしたらいいかと議論をしていかないと、あることを結局並べてそれがどれだけやれたかの事業量の評価になってしまい、それではもったいないなと思います。</p>
<p>前沢健康福祉部長</p>	<p>事業評価についてですが、ソフト事業についての目標については、推量的には図れないものもありますので、どこに達成感があるのかというのは個人によって差があると思います。ですので、量しかできないかなとは思っています。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>それをどうやって質を評価するかということを皆で考えていかないと、いつも限界で終わってしまいます。例えば、三重県では評価をきちんとやっていると思います。あれはすぐにできたものではなくて、長い間議論を重ねてきた結果だと思っています。やっぱり、自分達が子育てに対してどうしていきたいのか、議論してないと、何を評価していいのかわからないと思います。ただ事業を数でこなしたのかの評価だけでは、理念で</p>

<p>前沢健康福祉部長</p>	<p>「質の高い」、「最善の利益」や「子どもの権利を守る」など言っているけれども、何をもって守ったのかということが見えてこないということだと思います。いきなりそのことをやれという訳ではなくて、一緒に考えましょうということをお願いしています。</p> <p>子育ての総合的な事業については、色々な部署が関係してきますので、今後皆さんの意見を聞きながら、関係機関と協議して、行政ができることは行政で、民間と協働できなければいけないことは協働してと、協議して区分けして事業の展開をしていきたいと考えております。</p>
<p>君塚委員</p>	<p>この計画は、元々待機児童が東京にいっぱいいるから作るということになって、ニーズ調査をしたり、それを話し合ったりしてここまで来たと思います。でも、振り返るとやはり量的なものばかりに踊らされて、本来目指していたものは魅力ある富津で、「富津で子育てしたいよね」ということが、人口の増加にもなるし、質を上げることにもなるしと、そのところが見落とされて来てしまったのではないかという気がします。行政に資料を作ってもらって、形になってくると、どれだけ魅力のあるものが出来たのか、他市の人が見て、富津で子育てしたいと思ってもらえるような計画にしないと、意味が無いと思います。どこの市でも同じ様な計画ではなく、努力の方向が違う方が、魅力のある富津をPRする意味にもなると思います。量的なものだけではなく、質の高い魅力ある富津を市内の人、市外の人に認識してもらって、富津は変わったと思ってもらえるようなものをベースにして話し合っていく方が何年かで計画が変わっていくとしても良いと思います。でも、そういうことは予算とか問題もすごくある</p>

鈴木副会長	<p>と思います。じゃあどうしたらいいか、お金がないから何もできないというのでは、これだけのことを計画しても他の市と変わりが無いし、魅力ある富津をPRできないじゃないかなと、量的なものばかりに踊らされてきたかなと私達もここまで来て気づいたと感じます。今後は、そういった方向性を見つめながら、やっていくといいのではないかと感じました。</p> <p>時間的にこの内容でまとめるしかないのかと思いますが、それを作って終わりじゃなくて、これを叩き台にして、どれだけみんなに声を出してもらうのか、それをどう拾っていくのか、それをどう次の計画につなげていくのか、そういう仕組みをきっちりと作ってほしいというお願いをしている訳です。</p>
渡辺会長	<p>次世代育成支援行動計画「いいじゃないかふつつ」は、3月で終わりとなり、その後は、この子ども・子育て会議が担っていくということなのですが、私たちの任期は2年で、これは常設としてやっていくものなのか、策定が終わったら終わりなのかどうなのでしょう。</p>
前沢健康福祉部長	<p>この計画の事業評価や子育てに関することについては、この子ども子育て会議にかけて考えて行きたいと考えております。任期もあります、毎年会議を開催したいと考えております。回数としては、年3回以上は会議を開催したいと考えております。</p>
渡辺会長	<p>任期が終わって、メンバーが入れ替わっても、しばらくはPDCAサイクルの検証をこの会議の中で行っていくということは確定しているということで良いのでしょうか。</p>
前沢健康福祉部長	<p>はい。</p>
渡辺会長	<p>今後のこの会の在り方について触れてきましたが、</p>

鈴木副会長

計画の案がこうして出来てきて次の会議の3月にパブコメが終わった後の確認の作業があり、それ以降の会議の在り方というものを今皆さんと議論してきました。それを含めて、これをああしたらいい、こうしたらいいという意見がありましたらお願いします。君塚委員からご意見いただいた通り、データとか量とか数とかそういうものではなくて、もっと本質的なものを見失ってはいけないということは、鈴木副会長も仰っていることですが、それらの点を踏まえて皆さんいかがでしょうか。

テレビで駅が廃止になり、電車が止まらなくなり、街はシャッター街になってしまった所が、昭和の街が懐かしいということで韓国からの観光客が押し寄せ人気だというのを見ました。自分達は都会の価値観にあこがれて、都会にならなくてはいけないと思ってきたけど、都会になるというのは別に幸せなことではないなと改めて思いました。お金をかけなくてもやれることというのはあって、やっぱり、それは人を動かすということなのだろうなと思いました。先ほどの中学生の乳児健診の遊び相手などのようなことをみんなで一生懸命考えたら、何かできるのだろうなと思いました。

学童を各学校に一つずつというのは、目標としては素晴らしいことですが、じゃあ、それを皆が持家でやれるかと言ったらそうではない。そうすると場所の問題や人の問題をどういう風に応援して行ったら実現して行くのか考えて行かないといけない訳です。それは一つ作ったら補助金をこれだけ出すという問題ではないと思います。

そういうことを今議論して来年やろうとしても無理

井上委員

だと思うので、議論の積み重ねを行って、こういうことをやったら指導員も増えていくのではないかと考えていくということが必要なのだと思います。それは、行政の部署だけでは無理だと思いますので、自分達なりのやりようや工夫というのは発想を変えれば見つかるのではないかと思います。そのためには、来年以降少人数で課題別に話し合える仕組みづくりを考えていけたら良いかなと思います。

学童のこととか地域子育て支援センターのこととか、それぞれ皆さん得意分野があると思います。それぞれ得意分野がある人が集まって、その人達の周りにはいる本当にそれが必要な人達の意見を聞くという場をいっぱい作るというのは大事だなと思います。せっかくこうやって計画を立てて、学童だったら何年までにここの地区にこういう風にしたいとあれば、その地区の人達をベースに、実際学童というものはこういうもので、こういう風な仕組みがあって、実際お父さんお母さん達もここまで協力してやっていくのですよということを、実際に預けてない人達はわからないことが多いと思うので、説明会ではないけど、小さい会議で話していく場というのは必要なんじゃないかなと思いました。支援センターに関して、色々なお母さんや親子関係の方がいて、本当にどれだけ利用されるのかというのは地区によってバラバラだと思います。富津地区にもう一つあって、天羽地区にもあったらどこでもみんな行きやすいと思うので、そういう作ることを地区で集まって話し合ったりしたらいいかなと思います。会議の中で計画を立てているのであれば、計画を実行するにあたってそういうことを話し合えるという機会があったら立てた計画も有意義に進めて行けるの

<p>渡辺会長</p>	<p>かなと思いました。</p> <p>部会制について、意見がでましたが、学童のことや支援センターのことなどテーマを決めて、少人数で意見を出していったらどうかという意見をいただきました。これに関しては、今日決めなくてはいけないことではないので、今後の会議の在り方については、3月に方向性を出したらと思います。計画は計画として良いけれども、それをもっと実効性のあるもの、具体性のあるもの、実態に即したものにしていくためには、色々この子育て会議が参画していかななくてはならないとすると、その参画の仕方というのが、今出ている意見だと、小部会制にして少しずつ、話し合ってみたらどうかということです。他の意見がある方は、今でも次の会議でも結構ですので、考えていただいて皆さんの次の会議への宿題にさせていただけたらと思います。次の会議の時にこれからの子ども・子育て会議の在り方、できればテーマを絞って、ご提案いただけたらと思います。それを受けて、来年度以降の方向性を検討していく、本来の目的の富津市の子ども子育てを素晴らしいものにしようとするのが本来の目的ですので、皆さんの助言をお願いします。</p> <p>それでは、事業計画に戻らせていただきますが、内容自体に他にご意見ありますか。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>こんな内容が事業計画に盛り込まれるといいなというものを作ってきましたので、読ませていただきます。</p> <p>『この計画は、富津市民を代表とした子ども・子育て会議の委員が協議をして策定にあたるものです。しかし、新しい子育て支援制度に対応した仕組み（体制）づくりや、教育・保育の需要量の確定等を平成27年4月の実施に間に合わせるために、非常にタイ</p>

	<p>トなスケジュールで形を整える必要に迫られたため、基本理念に書かれた「次世代を担う子どもたちの権利と利益が最大限に尊重され、子どもたちが健やかに生まれ育ち、誰もが安心して喜びと生きがいを持って子育てできる富津市の実現」の具体的方針や取り組み方の柱について、議論を深める時間が取れませんでした。</p> <p>しかし、これらの議論は、市民性が発揮され、市民も主体となって子ども・子育てを考え、参加・参画するというこれからのまちづくりのありかたをとっても、とても重要なものです。議論を深めていくためには、作業部会（仮）等を起こしていかなければなりません。作業部会（仮）等の議論を通して精査し、書き込んでいける計画として位置付けたいと思います。』という思いを持って、参加していますので、是非とも実現して欲しいと思います。</p>
<p>渡辺会長 鈴木副会長</p>	<p>これは計画の中に組み込むということですか。</p> <p>組み込んでもらえたらいいなと思います。そうすると先ほどの議論が言葉として担保されると思いますので。</p>
<p>渡辺会長 前沢健康福祉部長</p>	<p>事務局、いかがでしょうか。</p> <p>内容については、精査させていただきます。</p> <p>実施にあたっては、皆さんの意見を聞きながら進めて行きたいとは考えております。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>計画というのはスタイルというものがあって、そこから抜け出せなくて、途中のものがきを書いてはいけないとか、実現できなかったことを書いてはいけないと思っ込んでいるところがあると思います。課題は課題として書き込んでいいのではないかなと個人的には思います。</p>
<p>井上委員</p>	<p>変えられるかもしれないという可能性がある方が市</p>

事務局・白石	<p>民も読んで、どうせこれはこうなのでしょと終わりじゃなくて、声をあげられる人が出てくるかもしれないと思うので、マイナスに考えるのではなくて、みんなで良くしていこうよ、いつでも話をしようよという広いスタンスに持っていったらいいかなと思います。時間が足りなかったとかマイナスイメージを持たないようにする方向で考えていただいて、いつでも、こういう会議をもって話し合いをしよう、みんなで子育てを良くしていこうという風にして広げていったら良いかなと思いました。</p> <p>2頁の計画の位置づけとありますが、ここに今後の進め方とか、今後についての位置づけとか、今後の方向性とかという風にかけるか検討して、内容については考えさせていただきたいです。</p>
鈴木副会長 事務局・白石	<p>期待しております。</p> <p>この会議は、そもそも計画の策定だけが目的ではなく、また、法律自体も時限ではありません。計画は5年刻みですので、5年間実施して、それを踏まえて2期・3期とずっと続いていくものです。委員の方の任期は2年となり、代わる委員の方もいると思いますが、それはその時の委員が引き続いて議論していただいて、計画を進めていただくものです。計画を立てたからこれで終わりという訳ではありませんので、ご理解いただきたいと思います。</p>
渡辺会長	<p>では、事務局の方で副会長、井上さんの意見を踏まえて、どんな文言が入れられるか検討していただくということよろしいでしょうか。</p>
事務局・白石 渡辺会長	<p>そうさせていただきます。</p> <p>それを検証するのはどうでしょうか。これを変えて議会とパブコメとなりますが、その前に会議の中で</p>

事務局・白石	<p>のアプローチは必要ですか。</p> <p>現実的に2月中旬にパブコメを予定しております。案については、今いただいたご意見をこちらで検討させていただきますが、もう一度会議を開催するのは非常に困難です。</p>
渡辺会長	<p>そうしましたら、会長、副会長に差し込む文言については一任いただけないでしょうか。事務局と文言について精査して決めて、皆さんに郵送で確認させていただいて盛り込んでいく。例えば、何頁にこういった言葉を付け加えましたとかという形でいかがでしょうか。</p> <p>他にご意見いかがでしょうか。時間的な制約があって、また、皆さんでというとな明け早々じゃないと間に合わないし、会議自体の予算的な制約もあるし、その辺をご容赦いただいて、会長、副会長と事務局で検討させていただくということでご了承願えればと思います。よろしくお願いします。</p> <p>他に計画についてご意見なければ、今の話を踏まえて、加筆修正をして基本的にはこの内容で、承認するというので、進めさせていただくということでしょうか。</p>
各委員 渡辺会長	<p>わかりました。</p> <p>ご異議なしと認めまして、議題1 富津市子ども・子育て支援事業計画を加筆修正つきで承認することとさせていただきます。</p>
渡辺会長 菊地委員	<p>4 報告</p> <p>次に4の報告について事務局の説明を求めます。</p> <p>初めに私の方から第3回の会議でご質問のありまし</p>

た幼稚園・保育所・学校との連携についてお答えさせていただきます。

今回改めて幼保との連携について、各小学校にアンケートを実施しました。その中で就学前児童との引き継ぎの場を設定している学校は、全ての小学校が設定しているとのことでした。また、入学式、卒業式や運動会等の行事を中心に行事の際の相互参観の機会を設けている学校は9校あります。地域の実情を考慮しながら保育所との避難訓練をしたり、就学前児との交流会の会を持ったり、低学年の遠足のコースに幼稚園や保育園を設定して、休憩を兼ねて交流を持ったりしているという学校もあります。

また、特別支援教育の面では、幼保の先生にも協力もいただいて、推進チームという形で各学校を訪問していただいたり、逆に保育所等に訪問する機会を設定していただいたりもしています。また、今年度は社会福祉課の働きかけで幼保と小学校との代表の方も参加して、情報交換をする療育等支援事業ケース会議も実施されました。このように徐々にではありますが、幼稚園、保育所と小学校との連携は積み重ねられています。教育委員会としても各地域、幼稚園、保育所、学校の実情に合わせた交流の機会を増やしていきたいと思っています。その中で互いの職員間の心の距離感が縮められればよいなと思っています。

ただ、現状を見ると相互に保育参観や授業参観をしたりしている学校はアンケートの結果をみると、まだ3校しかありません。それぞれの場で実施されている保育の内容や教育の内容を知ってもらうということは、理解を深める上でとても大切なことだと思っていますので、学校の方でも授業を公開するという日をど

<p>鈴木副会長</p> <p>渡辺会長 事務局・白石</p> <p>渡辺会長</p>	<p>この学校でも設けていますので、そういう情報を保育所や幼稚園にも伝えて、相互の参観の機会を増やしていきたいなど考えています。こうしたことは、校長会議の場で周知し、働きかけて行きたいと思っております。</p> <p>また、先ほど部会という話もありましたが、それぞれ地域の実情というのは色々違うと思いますので、地域の実情に合わせた話し合いの場が深められるというように、それぞれ担当しているのが子育て支援課だったり、教育センターだったりしますので、行政の方でも連携をしながら話し合いの場が設定できるように、また、要望があったらそれにうまく応えられるように、コーディネートの役割を果たしていけたらと思っています。</p> <p>保育園ですと子育て支援課が窓口ですが、教育センターと話し合う場がなかなか無いと思います。小学校の授業参観にも行かせていただきますが、学校の先生は保育園に来てはくれないです。相互の風通しの良さを実現させていきたいと思っておりますので、何か一緒に考える場が欲しいと思っております。</p> <p>事務局の方から他に何かありますか。</p> <p>今後のスケジュールですが、最終の案については、後で送らせていただきます。また、次回の会議は、3月中旬ごろで考えております。</p> <p>他に特になければ、第4回の子ども・子育て会議を終了いたします。とても内容の濃い会議になったと思います。皆様のご協力いただきありがとうございました。次回もよろしく願いいたします。</p> <p>閉会</p>
---	--